

min-na うれしい！
~Everyone is happy!!~

市立札幌開成中等教育学校 5期生 第3学年通信
発行:平成30年9月25日 火曜日

No.41



リサーチ型企业研修で学んだこと

●3年1組 男子

相手との向き合い方、それは思っていたよりも身近に答えがある。単身で企業に行く機会は初めてだったため、態度を調べてから臨んだ。「質問を必ず返す」や「背筋を伸ばす」のような意欲を見せる態度を意識していたが、研修を続けるにつれ笑顔での対話が楽しい働き方の第一歩だと気付いた。今回調べた事も気付いた事も、きっと将来働く上で役に立つだろう。

●3年1組 男子

私はリサーチ型企业研修で、接客の難しさを学んだ。店に入ったときに「いらっしゃいませ」と言われたり、注文するときに「ご注文お伺いいたします」と言われるのは、客にとっては当たり前のことだが、今回、接客を体験させていただいたことで、スムーズに接客することが難しいということ、その「当たり前」を作るのがいかに難しいかということを実感することができた。

●3年2組 女子

私は「病院で働くとは」をテーマにし、研修を行った。研修を通し、働くとは予想以上に大変なことだと分かった。病院では常に命と隣り合わせで、何をすることも大きな責任があった。また、患者さんや職員とのコミュニケーション能力は欠かせなかった。今回の研修で、病院だけでなく働いている人にもっと敬意を払うべきだと思った。そして将来私が働く時のために、今からコミュニケーション能力を培っていく必要があると感じた。

●3年2組 男子

今回の研修では、仕事に対して今までにない価値観、考え方を得られた。特に、仕事において、人とのつながりが大切ということが印象に残り、他の人と協力して仕事をする能力や人に応援してもらえる能力の大切さを学べた。この学べたことを今後の人生に活かし、人とのつながりを大事にしていきたいと思う。

●3年3組 女子

私は「人を支える仕事」というリサーチテーマで看護師と理学療法士の仕事を学びに行きました。結果として「人を支える仕事」というのは「人の人生に密接に関わる仕事」なのではないかと考えました。看護師は入院から退院までの短い間に患者をどうサポートしていけるか考える、理学療法士は肢体不自由児に今より少しでも自由に動けるように療育するなど、人生の中では短期間ですがその中でも相手と密接に関わることは、その先の人生も関わってくると考えたからです。私も将来は人を支え影響を与えられる仕事に就きたいと実感しました。

●3年3組 男子

この研修を通して、仕事をするときには常に探究を続け、楽しみながら向上していくことが大切なのだ分かった。仕事をする環境は常に変化し続けるので、その状況に応じて適応していくことで自分の仕事の質を上げていき、より良いものにしていくことで、自然と自分も楽しむことができるようになると思うので、そのような働き方を自分もしたいと考えた。

●3年4組 女子

今回の研修で、働くとは学び続けることだということが分かった。新たな医療を学び研究し続け、仕事に対して楽しさややりがいを見つけていくこと、新たな事に意欲を持ち、年齢関係なく挑戦し続けること、自分の中の常識を疑い続けることなど、全ての事柄に疑問を持ち、継続していくということの重要性を学ぶことができた。

●3年4組 男子

私は今回の研修で、北海道の整備士の働きについて調べました。丘珠駐屯地では、ヘリコプターのUH-1Jを間近で見たり、日本航空専門学校ではセスナ172の点検手順を学んだり、ビーチクラフトのバロンやベル412のエンジンを見たり、丘珠空港ではサーブ340の現物タイヤ、翼の凍結防止ゴム管を見ることが出来ました。実物を見る事で、整備士になりたいという気持ちがより強くなりました。

探究 marché での発表の様子

保護者のみなさまへ

お子様の発表の様子は、各自のiPadに動画として保存してあります。よろしければ、お子様に声をかけて、ご覧いただければ幸いです。

